

忘れられた証拠の問題について

櫻木 新

芝浦工業大学

Alvin Goldman は”What is Justified Belief?”¹において、認識主体の現在の状態が彼の信念の正当化を決めるとする立場に対し次のような問題を指摘した。我々は通常、新しい信念の獲得に際して何らかの根拠や証拠を有している。しかしその後の変遷の中で、信念そのものが記憶によって正確に保持され続けているときでさえ、往々にして獲得の際に有していたはずの根拠や証拠を完全に忘却してしまう。私が過去に獲得した信念を **B** とし、そのとき私が **B** を信じることを正当化していたオリジナルの根拠・証拠を **E** と呼ぼう。もし今現在、私が **B** を信じている一方で、**E** 自体の忘却を含め、**B** がそもそもどうやって正当化されていたのかについての理解を完全に欠いているとすれば、私は **B** を信じることを正当化されているだろうか？信念の正当化が認識主体の現在の状態によってのみ決定されるとすれば、既に忘れ去れた **E** に訴えることで私が **B** を信じることを正当化されていると見なすことできないように思われる。これが忘れられた記憶の問題である。

この問題は忘却に関わるもう一つの問題、忘れられた悪い証拠の問題²を踏まえることで、アクセス内在主義だけでなく（ある種の）証拠主義者にとって深刻な問題を提出するが、本発表では特に Conee and Feldman が”Internalism Defended”³において簡潔にまとめた 2 つのアプローチに議論の焦点を絞る。記憶されている信念が思い出される際、多くの場合我々はそれが記憶によって保持されている信念であると見なすし、概してそのような判断は正しい。証拠主義者はこの事実を訴えて、**B** が単なる思いつきなどではなく記憶よるものであると思われるという証拠に訴えて、私が **B** を信じ続けることを正当化されることが可能であると主張できる。さらに証拠主義者は、私が現時点で有しているそのほかの **B** と関連する信念へ訴えることで **B** を信じることを正当化されることが可能であると主張することもできる。確かに私が小学生の時に学んだ知識の大半は、そもそもの根拠や証拠が何であれ、今現在私が所有しているそのほかの信念によって容易に正当化することが可能であろう。

Kevin McCain は”Is Forgotten Evidence a Problem for Evidentialism”⁴においてこれらの二つのアプローチを組み合わせた証拠主義の擁護を試みている。McCain の議論は、主に Goldman の議論の届く範囲に向けられている。上のような仕方でオリジナルの証拠が忘却された信念が再び正当化を得ることが可能であるとすれば、Goldman の議論の想定とは異なり、証拠が忘れられたことによって正当化を失う信念

¹ George Pappas (ed.), *Justification and Knowledge*. Boston: D. Reidel. 1979.

² A. Goldman, “Internalism Exposed” *The Journal of Philosophy* Vol. 96, 1999.

³ *American Philosophical Quarterly*, Vol 38, 2001, pp. 9.

⁴ *The Southern Journal of Philosophy*, Vol. 53, 2015.

の数というのは無視できる程度に少ないと McCain は主張する。これが正しいとすれば、忘れられた証拠の問題は Goldman の想定と異なり、証拠主義を懐疑論に導くどころか、たかだか例外的な信念にのみ適用される些細な問題に過ぎないことになる。

これら現在の証拠に訴えて過去に獲得された信念の正当化を説明するアプローチに対し、Goldman は全面的に対立する立場を取る。Goldman によれば、現在の証拠だけが過去に獲得された信念に十分な正当化を与えることはあり得ない。なぜなら、我々は適切な証拠だけではなく、誤った証拠も同じように完全に忘却してしまうからである。B*は B と同じ内容の信念だとしよう。私は以前 B*を誤った証拠 E*に基づいて獲得したが、その後 E*を含め、B*のオリジナルの根拠が何であったのかを完全に忘却してしまったとする。B と B*に関して私の現在の認識状態は完全に一致するとき、現在の証拠に基づいて B が正当化されるなら、全く同様に B*も正当化されるに違いない。したがって、そもそもの証拠が忘却によって失われた信念を現在の証拠が適切に正当化するとすれば、それはそもそも正当化されていた信念だけでなく、正当化されていなかった信念も同様に正当化してしまうのである。Goldman は”Internalism exposed”の中でこの帰結を拒否し、「過去の獲得が(現在においても)まだ重要であり、決定的なのだ」⁵と主張するが、Conee and Feldman は真っ向から再反論を試みる⁶。本発表では、Goldman と Conee and Feldmann や McCain との間の対立点の検討を通じ、忘れられた証拠の問題とはそもそもどういった問題であるのかを考察する。

⁵ ibid. pp 280-1.

⁶ ibid. pp 10.